

## 7/31 使徒の働き 16 章 16-34 節「鎖が外れて」

小池 宏明 牧師

パウロの第一回伝道旅行の後、異邦人キリスト者が多く救われたことで、ユダヤ主義キリスト者から「異邦人も割礼も受けないと救われない」という主張が上がり、激しく対立した。この問題を話し合うためにエルサレムにおける教会会議が開かれ、福音を受け入れ信じるだけで救われることが確認された。その結果を伝える目的もあり、パウロは第二回目の伝道旅行に出発した。パウロとシラス、途中でテモテを加えて内陸部を通過してエペソ方面へ向かう予定だったが、様々な事情が重なって、計画通り行かなかった。ついに港町トロアスに到着し、ここでパウロはマケドニア人の「助けて下さい」と言う幻を見た。こうしてパウロたちは、エーゲ海を渡って、ヨーロッパ（ローマ帝国の中心地）に福音を伝えることが、主なる神様のご計画であることを悟った。人間はいろいろと計画を立てるが、主の御心に叶ったことが実現する。

### \*キリストによる真の解放

ヨーロッパに渡って、最初の教会がピリピという町に誕生した。この町は大きな植民都市（12 節）であった。紀元前 30 年ごろから、ローマ市民の移住政策が取られ、「第二のローマ」とも呼ばれる都市になっていた。

主なる神様は、占いの霊に憑りつかれた若い女性を導き、パウロたちに付きまとうようにさせた。彼女にとって助けを求める行為だったのだろう。18 節「何日もこんなことをするので、困り果てたパウロは、振り向いてその霊に、「イエス・キリストの名によっておまえに命じる。この女から出て行け」と言った。すると、ただちに霊は出て行った。」この女性は、イエス・キリストによって、悪霊から解放された。今日の説教題は「鎖が外れて」とした。占いの霊という鎖に繋がれていた若い女性は、イエス・キリストによってその鎖が解かれて自由の身になったのだ。

現代においても、多くの人々は、何らかの鎖に縛られ、窮屈な心の状態で生きているかもしれない。しかし、人々には、主イエス・キリストによって解き放たれて、キリストにある自由が与えられるという恵みの道があるのだ。私たちにとって、自分を窮屈に縛り付けているこの世の常識や価値観があるだろうか。私たちは、主イエス・キリストによって、一人ひとりを縛り付けている鎖から解放されるのだ。この世にあって、敬虔に生きようとする者は迫害を受ける。しかし、この世と調子を合わせることなく、主の道を歩み続けたい。